

2019 さが総文

全国の600人、佐賀を活写

写真



写真部門は、嬉野市体育館などで表彰式や約600人が参加した県内各地での撮影会(29日実施)の報告が行われた。

撮影会は吉野ヶ里歴史公園、鹿島市の祐徳稲荷神社・太良町、有田町の3コースで実施。来年以降、全国総文祭が開かれる高知、和歌山、東京の生徒が代表して、自身の作品をスクリーンに映して紹介した。

このうち、祐徳稲荷神社・太良町のコースに参加した東京・トキワ松学園の中島陽和さん(3年)と石原里亜シヨアナさん(2年)は、神社の門前商店街で出会った人や太良町の海中鳥居、干潟などを活写した。

石原さんのお気に入りの作品は、カメラに向かってはほほ笑む女の子が主役の1枚。手前に置いた植物の葉で「前掛け」をつくり、柔らか

県内各地で撮影会

な雰囲気や立体感を生み出した。中島さんのベストショットは「東京では見ることのできない景色」という太良町の干潟がテーマの作品。撮影時の曇り空とマッチするようモノクロ写真にした。右上方に小さく写る人や車が干潟の大きさを引き立たせている。

佐賀を初めて訪れたという2人は「気さくに撮影にに応じてもらい、人の優しさに触れることができた。酒感通りなど趣深い風景も新鮮だった」と滞在を満喫した様子だった。(古川公弥)



東京・トキワ松学園の石原里亜シヨアナさんの作品



東京・トキワ松学園の中島陽和さんの作品



撮影会報告で作品を紹介した東京・トキワ松学園の中島陽和さん(右)と石原里亜シヨアナさん